

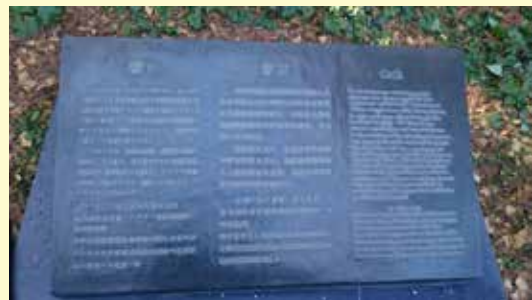
日中不再戦・反覇権の誓い



上：南京大虐殺犠牲者国家追悼式典
(2014年12月13日)

右：南京大虐殺記念館の庭に定礎された
「誓い」の碑。碑文は日本語、中国語、
英語の3カ国語で記されている。

左：虐殺の現場を訪れた日本からの訪問
団・中央が市川誠団長(1985年5月)



日中労働者交流協会は、南京大虐殺記念館に「誓い」の碑を建てました

1985年5月に南京を訪れた市川誠会長ら日中労働者交流協会訪中団は、虐殺犠牲者の発掘作業に遭遇しました。つぎつぎに掘り出される人骨に団員全員の表情は強張り、言葉もありませんでした。市川会長は同年8月15日に行われた南京大虐殺記念館の開館式典に出席を望みましたが、遺族の心情を配慮した南京市政府は出席を認めようとしませんでした。その時、市川会長は右記の「誓い」を表明し、外国人として唯一出席が許可されました。日中労働者交流協会は、鎮魂の思いをこめてウエストミンスター置時計(高さ2メートル)を記念館に寄贈しました。

市川会長の死後、吉岡会長が「誓い」の碑を南京大虐殺記念館に建立しようという運動を行い、多くの労働組合、個人のカンパを集めました。日中労働者交流協会と中華全国総工会、南京大虐殺記念館との話し合いの結果、「誓い」の碑の建立が決定しました。

誓い

われわれは1931年および1937年を契機とする日本軍国主義の中国侵略戦争を労働者人民の闘争によって阻止し得なかったことを深く反省し、南京大虐殺の犠牲者に対して心から謝罪するとともに、哀悼の意を表し、ご冥福を祈ります。

われわれは、日中不再戦、反覇権の決意を堅持し、子々孫々、世々代々にわたる両国労働者階級の友好発展を強化し、アジアと世界の平和を確立するため、団結して奮闘することをあらたに誓います。

公元1985年8月15日

抗日戦争及びファッショ戦争勝利40周年記念日

日中労働者交流協会会長市川誠ら有志の呼びかけによる
南京大虐殺犠牲者の慰霊行事に賛同する有志一同

日中労働者交流協会は、2009年12月13日、南京大虐殺記念館に「日中不再戦・反覇権の誓い」の碑を建立し、除幕式を行いました。

あなたも日中労働情報フォーラムの会員になりませんか

日中労働者交流協会は、1972年の日中国交正常化を受け、当時のナショナルセンターであった総評の各単産と中華全国総工会との交流窓口として、1974年8月に結成されました。初代の会長は市川誠総評議長(当時)、事務局長は兼田富太郎(元全港湾委員長)でした。各単産、地方に組織を置き、主な活動は中華全国総工会との交流と意見交換でした。総評解散と連合結成の流れの中で、日中労働者交流協会は、個人加盟に切り替えて、会の存続を図りました。「日中不再戦・反覇権の誓い」の碑を建立したあと、12月13日に行われる南京大虐殺犠牲者追悼式に参加をしています。

2013年6月には、労働組合の活動家だけでなく、中国の労働問題に関心を持つ人にも参加を募り、新たに日中労働情報フォーラムを設立しました。

<連絡先> 日中労働情報フォーラム

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2 全港湾気付

TEL 03-3733-8821 FAX 03-3733-8825

Eメール info@chinalaborf.org

ホームページ <http://www.chinalaborf.org>